

今月の表紙
平家大祭



6月6日(土)、7日(日)に湯西川で行われた平家大祭。昨年までは、前夜祭を含めて3日間行っていましたが、今年から2日間の開催となりました。

メインの平家絵巻行列が行われた6日(土)は、行列の出発と同時に雨がやみ、汗ばむくらいの陽気でした。行列には、地元住民のほか、一般公募で選ばれた11名も参加し、温泉街を勇壮に歩きました。少女なぎなた隊の先頭を歩いていた中川麻由さん(6年生)に話を伺うと、「衣装が重かったので、着るのも歩くのも大変でした」と、少し疲れた様子でしたが、笑顔で答えてくれました。

朝から晴天に恵まれた7日(日)は、平家の里で獅子舞や平家琵琶などの郷土芸能が披露されました。語り部と着付け舞には、子どもたちも出演し、観客から大きな拍手が送られました。



湯西川小学校4年生の山城穂歌さんによる語り部の様子。

5月28日(木)、裏見ノ滝で荒沢不動尊縁日が行われました。荒沢不動尊は、寛永元(1624)年に羽黒山(山形県)から迎えられ、天海大僧正の命で滝の後ろに安置したと伝えられています。縁日の供養は一時途絶えていましたが、昭和47年に興雲律院(萩垣面)の中川光熹住職の手によって復活し、現在まで続けられています。



荒沢不動尊縁日



裏見ノ滝に祭られる荒沢不動尊。

当日は、不動尊の前に護摩壇が設けられ、中川住職と日光修験の儀式終了後にはお札が配られ、訪れた方たちは、お札を受け取って帰路につきました。

行者の皆さんによって護摩が焚かれました。願文を読み上げ、参加者の願いが書かれた祈願の護摩木が火の中に入れられると、周囲は厳肅な雰囲気になりました。

友達と一緒に訪れた和田さん(宇都宮市)は、「約40年ぶりに裏見ノ滝に来ました。今日はめったに見られない護摩焚きを見ることができて良かったです」と話してくれました。



5月30日(土)・31日(日)の2日間、根室の今市青少年スポーツセンターで、女子ホッケー日本リーグが開催されました。

地元チームのグラクソ・スミスラインは、30日に山梨学院大学CROWN INGLORIOUS、31日に天理大学ベアーズと対戦。それぞれ1-0、3-1で勝利し、地元で初めての連勝を飾りました。



熱戦が繰り広げられた会場には、連日多くの方がグラクソ・スミスラインの応援に訪れましたが、試合の行われた週末はあいにくの天気。特に31日は雨の中の試合となりました。しかし、前半に1点を先制されながらも、後半に3点を取って逆転するという試合に、観客は大興奮でした。

高円宮牌2009女子ホッケー日本リーグ

5月15日(土)、足尾地域の松木地区で水と緑の少年隊フォーラムin足尾が行なわれました。子どもたちに水と緑に対する環境意識を高めてもらおうと、県造園業協会の主催で毎年開催されています。

県内の小・中学生を中心に約300名が参加し、協会の方たちから植樹の方法を教わりながら、アセビやレンゲツツジを植樹しました。



水と緑の少年隊フォーラムin足尾



5月24日(日)、小林地区の祭田で民謡瑞豊会主催により今市田植祭が開催されました。

この祭は、昔ながらの農作業を再現するもので、最初に農耕馬による代かきが行われたあと、今市田植唄が歌われる中、早乙女姿に扮した地元の方と小林小学校の児童が一行に並んで、汗をかきながら手で苗を植えていきました。

今市田植祭

5月24日(日)、日光二荒山神社中宮祠で第1回日光さんしょううどん食べ競争が開催されました。

中禅寺湖畔の活性化を願い、中宮祠七福神まつりにあわせて開催されたこのイベント。奥日光の名物として4年前に開催されたさんしょううどんを、早食いでなく3分間ちようどで食べ終えることを競うという珍しいものです。

県内外から集まった44名の参加者は、勘だけを頼りに、ざるに盛られた1人前230gのうどんを次々



さんしょううどん食べ競争



川原井さん(右)と三浦さん

に食べ終え、番号札を上げて完食を告げました。

ご家族で参加した古川さん(宇都宮市)は、「3分で、というのは難しかったです。さんしょうどんは初めて食べましたが、辛くなく、上品な味でおいしかったです」と答えてくれました。

なお、2分59秒で食べ終えた川原井さん(中宮祠)と2分58秒の三浦直人さん(埼玉県の2人が、ジャストイート賞として、神社境内にあるサンショウの木の2年間オーナー権を獲得しました。



日台親善交流会

5月19日(火)、日光明峰高校で日台親善交流会が行われました。

参加したのは、台南市(台湾)から訪れた28名の高校生と日光明峰高校の人文・国際コースの3年生。最初は緊張した様子でしたが、お茶の振る舞いや、生け花体験などを通して打ち解けていきました。

お茶の席で台南市の高校生たちは「おいしい!」などと、日本語でも話しをしていました。代表してお茶を立てていた茶道部部長の藤田芽依子さんに話を伺うと、「緊張せず、いつもどおりにできました」と落ち着いた様子でした。

また、生け花を教えた華道部部長の福田未穂さんは、「どう伝えればよいか不安だったけど、身振り手振りで伝わったみたいで良かった」と安心した様子でした。

一緒に昼食を食べた後は、台湾と日本の教育などについての討論会や吹奏楽の演奏、プレゼント交換などが行われ、最後は全員で記念写真を撮り、交流会は笑顔で幕を閉じました。



昼食の時間。話しが盛り上がり、皆さんとても楽しそうな様子でした。